

●執筆者紹介

村上一博（むらかみ かずひろ） ※編者

一九五六年京都市生まれ。明治大学法学部教授。同志社大学法学部卒業。神戸大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士（法学・神戸大学）。

主な業績…（単著）『明治離婚裁判史論』（法律文化社、一九九四年）、『日本近代婚姻法史論』（法律文化社、二〇〇三年）、『日本近代法学の巨擘 磯部四郎論文選集』（信山社、二〇〇五年）、（編著）『日本近代法学の揺籃と明治法律学校』（日本経済評論社、二〇〇七年）、（共編著）『磯部四郎研究——日本近代法学の巨擘——』（信山社、二〇〇七年）、『日本近代法学の先達 岸本辰雄論文選集』（日本経済評論社、二〇〇八年）ほか。

執筆担当…はしがき、プロローグ、総論、第5講、第6講、第12講、第21講、第24講、コラム6。

西村 安博（にしむら やすひろ） ※編者

一九六五年鳥取市生まれ。同志社大学法学部教授。九州大学法学部卒業。九州大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士（法学・九州大学）。

主な業績…（単著）『鎌倉幕府の裁判における和与について——和与の理解をめぐって——』（二・完）（『法政理論』第三三卷第二号・第四号、二〇〇〇年・二〇〇一年）、『鎌倉幕府の裁判における問状・召文に関する覚え書き』（『同志社法學』第六〇卷第七号、二〇〇九年）、「日本中世における裁判手続に関する理解をめぐって——その理解の現状と課題——」（二）（二・完）（『同志社法學』第六四卷第七号・第六五卷第三号、二〇一三年）、（共編著）浅古・伊藤・植田・神保編『日本法制史』（青林書院、二〇一〇年）ほか。

執筆担当…第2講、第3講、第7講、第8講、コラム2、第13講、第18講、第19講、第23講、あとがき。

畠山 亮（はたけやま りょう）

一九七四年横浜市生まれ。龍谷大学法学部教授。東北大学法学部卒業、東北大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士（法学・東北大学）。

主な業績…（単著）「中世後期に於ける暴力の規制について——戦国期喧嘩両成敗法の成立まで——」（『法學』第六五巻第一号、二〇〇一年）、「中世後期村落に於ける領主についての一考察」（『法制史研究』第五一号、二〇〇二年）、「戦国期における喧嘩規制法について——戦国期喧嘩両成敗法の再定位——」（『法學』第七五巻第五号、二〇一二年）、「戦国大名武田氏における暴力の規制について（1）」（『9・完』）（『龍谷法學』第四五巻第四号、第四七巻第四号、第四八巻第四号、第四九巻第四号、第五〇巻第四号、第五一卷第四号、第五二巻第四号、第五三巻第四号、第五四巻第四号、二〇一三～二〇二二年）、（共編著）浅古||伊藤||植田||神保編『日本法制史』（青林書院、二〇一〇年）ほか。

執筆担当…第4講、第9講、第10講、コラム3、第14講、コラム4。

北 康宏（きた やすひろ）

一九六八年大阪府生まれ。同志社大学文学部教授。同志社大学文学部卒業。同志社大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。博士（文化史学・同志社大学）。

主な業績…（単著）「律令国家陵墓制度の基礎的研究——「延喜諸陵寮式」の分析からみた——」（『史林』第七九巻第四号、一九九六年）、「国造制と大化改新——大化前代の支配構造——」（『史林』第九四巻第二号、二〇一一年）、「大王とウヂ」（『岩波講座日本歴史』第2巻・古代2、岩波書店、二〇一四年）、「彈正台と太政官との互弾関係に関する覚書」（『文化学年報』第六五輯、同志社大学文化学会、二〇一六年）、「日本古代君主制成立史の研究」（塙書房、二〇一七年）、「人物叢書 中田薫（吉川弘文館、二〇二三年）」（解説・編者）中田薫『日本法制史講義 公法篇』（講談社学術文庫、二〇二四年）ほか。

執筆担当…第1講、コラム1、第17講、第22講。

代田 清嗣（しろた せいし）

一九八九年静岡県生まれ。名城大学法学部准教授。名古屋大学法学部卒業。名古屋大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士（法学・名古屋大学）。

主な業績…（単著）『徳川日本の刑法と秩序』（名古屋大学出版会、二〇二〇年）、『徳川幕府刑法における贈取賄罪』（『名城法学』第六八巻第二号、二〇一八年）、「近世後期における一揆の変質と科刑」（『法制史研究』第七二号、二〇二三年）ほか。

執筆担当…第11講、第15講、第16講、コラム5、第20講。